爆乳で陰キャの女友達にセクハラしまくって快楽堕ちさせて射精射精射精♡♡♡（体験版）

《作》
ビハインド・ザ・ブリーフ
《絵》
ノノギ

宣伝

体験版は文字ばっかりですが、
製品版はいやらしいイラストも挿されておるので
買ってくだされ！！！！

そして、この作品……
ＣＧ集版も存在してございます！！！！！
FANZA・Dlsite で販売しとりますので
是非お買い求め！！！！！！

本編

「その、今日の帰り……ちょっと、相談に乗ってほしいんだけど」

もみじが何やら、意を決したようにそう言ったのは今日の昼休みだ。
中庭で一緒に昼飯を食べた後、他の生徒に聞かれないよう、木陰でこっそりとそう告げたもみじ。
木漏れ日にチラチラと照らされる薄紅色の頬が妙にこびりついて、午後の授業中頭の中をクルクルと回っていた。
そして帰り道、俺はコンビニでトイレを借りたもみじのことを待っている。
それにしても『相談』か……。
『告白』なら嬉しかったが、そんな口振りではなかった。
そもそも多分、もみじが好きなのって……

「ご、ごめーん！　お待たせ！」

コンビニから出てきたもみじは、急ぐ用事も無いはずなのにあわあわと、長くて黒い髪を振り乱しながら走ってくる。
おっちょこちょいで慌てん坊な彼女の姿を見ていると――モヤモヤしていた俺の心に明るい光が差し込んでくるようだ！

「おいもみじ、そんな慌てるとまた――」
「ひゃっ」

案の定、躓いてバランスを崩したもみじ。

（お、もみじが今日もこけた！　チャンス！！）

そんな本音が俺の心の中でだけ響く……。
いやいや、これは彼女を守るためですよ？
誰にともなく頭の中で言い訳しながら、俺は彼女の体に手を伸ばす。

「危ないっ！！」

具体的には……豊満に育った彼女のたわわなおっぱいを！！

背中から思いっきり鷲掴みで！！！

むにゅうううううううううう♡♡♡♡

「ひやぁぁぁぁぁぁぁぁっっ♡♡♡」

うおぉぉぉぉぉぉぉぉぉ……！！

今日も素晴らしい揉み心地！！！

もみじと一緒にいると一日に一回はおっぱいチャンスがあるので本当にありがたい！！！

こけそうになった彼女の体重を両手にずっしりと感じながら、柔らかくて大きなおっぱいを揉みしだく！！！

むにゅっ♡　むにゅっ♡　むにゅっ♡　むにゅっ♡

ちょっと汗ばんだ制服の肌触りもまた、たまらん……！！

「まったく、もみじはおっちょこちょいだなぁ」

「ご、ごめんっ！　でも、あの……」

「ん？　どうかしたか？」

「あの、あの、む、胸……」
「胸？　柔らかいぞ！」
「そうじゃなくて！　そ、そろそろ離してぇ」
ここでストップをかけられてしまった。
あんまり揉みすぎると流石に疑われてしまう。
俺は追加で三揉みした後、大人しく彼女の爆乳から手を離す。

「あー、すまんすまん！　慌てたからつい！」
「う、ううん……支えてくれてありがとう」
もみじは恥ずかしそうに、だけど疑いの感じられない純粋な笑顔でお礼を言ってくれる。
揉みしだいた乳の感触とこの無垢な笑顔で、それぞれ１リットルは射精できる。

「じゃ、じゃあ行こっか」
恥ずかしさを誤魔化すようにそう言って歩き出すもみじ。
だけど、彼女が手ぶらなのが俺は気になった。

「それはいいけど……何か買った？」
「買ってないけど……なんで？」
「いや、トイレ借りたしマナー的に……」
「……あ、あ！　どうしよう！　戻らないと！」
もみじは心底申し訳なさそうにおろおろ狼狽える。
「あー、わざわざ戻らなくていいよ。俺がお菓子買ったし、それで」
俺は鞄から、先ほどコンビニで買ったポッキーを見せる。
「うぅ……ごめんねぇ」
「でもちょっと意外だな。もみじのことだから何か買ってるもんだと」
お小遣いを貯めないと……と思っていてもコンビニに寄るとついつい何か買っちゃう子だ。
「それはその……ダイエットしようと思って」
「ほぉ……ダイエット！」

乙女の決意を聞いた俺は、少し意地悪したくなってしまう。

「じゃあこのお菓子もいらない？」

先ほど見せたポッキーを、改めて鞄から取り出す。

「そ、それは……」

俺は箱をペリペリと開け、中から銀色の袋を取り出す。

「一本くらいなら変わらないでしょ」

「それは……そうかも！」

悪魔の囁きに、あまりにもあっさりと陥落したもみじ。

俺は銀色の袋を破ると、一本取り出したポッキーの口に近づける。

「ほれ、美味いか」

「うん、おいひい！」

エサを貰う雛鳥のように、俺の手からポリポリとポッキーをいただくもみじ。
クッキーをかじる彼女の唇、その振動が指に伝わってドキドキしてしまう。
彼女がポッキーをかじればかじる程に距離の詰まっていく指と唇。
どさくさに紛れてそっと触ると、ふんわり柔らか……。

「もう一本食べるか？」
「うんっ」

嬉しそうに俺の手から二本目をいただくもみじ。
ぐふふ……これでますます柔らかくなるぞ……！！
彼女が嬉しければ俺も嬉しい、そんなギブアンドテイクの気持ちで次から次へとポッキーを与えて……

ポリポリ……ポリポリ……

「全部食べちゃったよ～ごめんなさい～」

無事に完食！！
それにしてももみじ、意志が弱すぎる……。

「うぅ……こんなんじゃ痩せられないよ～」
「……そんなに痩せたい？」
なんとなく痩せたくなった、以上の理由を感じてしまう。
『相談したいこと』と合わせて考えると……俺の脳裏を嫌な予想が走る。
「う……うん。あのね、相談したかったことなんだけど……」
「……」
予感を押し殺すように、ゴクりと生唾を飲み込む。
しかし、それでもみじの言葉が止まるはずもなく……
「私……生徒会長に告白しようと思うの！」
き、来た……！　くそっ、嫌な予想が当たった！
畜生……容姿端麗成績優秀スポーツ万能の生徒会長に俺なんかじゃ敵うはずがない……。
俺が勝っているのは身長と筋力と精力と性欲とチンポのデカさとそれに恐らく射精量も……そのくらいだ！

ＢＳＳ（僕の方が先に処女膜破りたかったのに）

（でも生徒会長……普通に彼女いるんだよな）

そりゃそうだ。
そんな完璧超人に彼女がおらんはずがない。
ショックはショックだけど、もみじが既に失恋していることを思うと気持ちがスーン……と落ち着いてくる。
それにしても、生徒会長は別に隠してるわけでもないし、気づいてないのもみじくらいじゃないか？
やっぱりもみじって、かなり抜けてるっていうか……。

「それでその、アドバイスがほしくて……。私より仲がいいし、男子の目線で直した方がいいとことか、わからないし……」
「あ、うん……」

どうする？　さっさと事実を伝えるべきか？
失恋でショックを受けたところを慰めれば思い通りに……
……いや、待てよ？

おちんちんを挿入(い)れるだけならわざわざ付き合う必要もないし……
この状況をもっと効率的に活かす方法、あるのでは？
俺の頭がフル回転する！！！
体のいい理由を手に入れた今、どうやってもみじの処女膜を破ってやろうか……。
とにかく、速攻で勝負をしかけるしかねぇ！！！

「……よし、わかった！　そういう話なら、とても大切なアドバイスがある！」
「ほ、ほんとに！？」
「二人っきりじゃなきゃ話せないことだから、俺の部屋に来てくれ！」
「へ、部屋に……うん」

承諾を得た！！！
女の子を部屋に連れ込める……その事実に俺の胸も高まりチンポも固くなる！！！
うむ、我が家に案内するためもみじの手を引いてやらんとな！！！

「よし、行くぞ！」

俺は左手を伸ばしてもみじの右乳を思いっきり掴む！！！

むにゅうううううううううううううう♡♡♡♡♡

「ひゃぁぁぁ♡　そこ、手じゃないよぉ♡」
「ごめんごめんうっかり間違えた柔らかい！！」

間違えついでにもっと揉む！！！

むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっっ♡♡♡

「あーん♡　放してよぉ♡♡」

♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡

そして部屋についた……ここまで来ればこっちのもんだ……！！

「お、男の子の部屋……入るの、はじめて」
「まぁとりあえず、ベッドに座ってよ」

俺が毎日シコシコ射精しているベッドにもみじを座らせる。
特に面白いものもない俺の部屋だが、もみじは落ち着かない様子できょろきょろ辺りを見回す。

「なんていうか……イカ焼きとか、食べた？」
「アッッ！！　食べた食べた食べた！！　モリモリ食べたモリモリ！！」

くそっ！　常日頃から消臭くらいしておくべきだった！！
もみじみたいに抜けてる女の子じゃなきゃ全てを察知されてしまうところだ！！！　この臭いは！！！

「この洗面器は……？」
「アァッッ！！　それはほら、この前熱をこじらせたときにタオルを濡らすために使ってそのままにしていて！！」
「そうなんだ」

危ない危ない……
毎日洗面器がタプタプになるまでオナニーしてるなんて言ったら怖がらせちゃうもんな。
もみじみたいに抜けてる女の子じゃなきゃ洗面器を見た瞬間に射精量に気がついて逃げ出すところだ。

「それで、その、ここじゃないとできない話って？」
「うむ。ちょっと失礼」
俺は礼儀正しく挨拶しながら、彼女のデカパイを鷲掴みにする。
むにゅうううううう♡♡♡
「ひやぁぁぁぁぁぁぁぁ♡♡♡　な、なんでぇっ♡♡」
「うほぉぉぉ……何度揉んでも柔らかい……！！」
毎日隙あらば揉み触っているおっぱいだが、ここまで堂々と揉んだのは初めてだ！！
気持ちの赴くまま、揉み続ける！！！
むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡
「わ、わざとじゃないよね！？♡♡♡」
こんなに正面から揉まれても、友達を信じたいもみじの純心……。

それを踏みにじっているのだと思うと、おっぱいを揉む手が邪心でますます気持ちいい！！！

「わざとわざと！！　あー、柔らかい！！」
「な、なんでぇ♡　やめてよぉぉ♡」
「だめだめ！　生徒会長と付き合いたいなら大事なことだからね！！」
「えっ、えっ♡　ど、どういうことなの♡」

素直に聞いてくれるもみじ……ありがたくこのまま揉ませてもらおう！！

「説明するから、揉まれながら聞いてね！？」
「えっ♡　あうっ♡」
「生徒会長が滅茶苦茶モテるのは知ってるよな！？」
「う、うん……♡」
「じゃあすごいヤリチンなのは！？」
「え……ふぇっ！？♡」

衝撃の情報に思わず表情の強ばるもみじ！！
表情が強ばっても、おっぱいは柔らかい！！！

「生徒会長みたいに女慣れしてるヤリチンはさ……もみじみたいな恥ずかしがり屋と付き合うの嫌がるんだよ！」
「えっ♡　ほ、ほんとぉ！？♡♡」

嘘。
生徒会長は全くもってヤリチンではない。中学の頃から付き合ってる彼女を大切にしている。
だけど、もみじなら騙しきれる自信がある……！！

「おっぱいを揉まれただけで動揺しちゃうような子だと、絶対にフられちゃうね！　あー、柔らかい……！！」
「そ、そんなぁ……♡♡」

俺の嘘をすっかり信じてもらったところで、本題に入ろう！！

「だからもみじ……今から俺とセックスするぞ！！」
「ふえぇぇぇぇぇっ！？♡♡♡」

強烈な提案に再度驚くもみじ！！！
だけど、これだけは絶対に譲れねぇ……ゴリ押しさせてもらう！！！

「そ、そんな、ダメっ♡　は、はじめては好きな人と……♡♡」
「あー、そういう重いのが一番ダメだから！！」
恥じらうもみじにダメ出ししながら、俺はすっかり勃起した乳首を摘む！！
片手で揉み、片手で摘み、異なる感触のコントラストを味わう！！！
むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡　むにゅっ♡♡
くにっ♡♡　くにっ♡♡　くにっ♡♡　くにっ♡♡
「あっ♡♡　あぅっ♡♡　そこはっ♡♡」
敏感なところをいじられて喘ぐもみじ！！
このまま畳みかけてやる！！！
「アドバイスが欲しいって言ったのはもみじの方だろ！！？」
「そ、そうだけど……♡♡」
「俺だって童貞だけど、友達のためを思って一肌脱ぐんだぞ！」
「うぅ……♡♡」

「もみじがそんな調子でどうするんだ！！」
「ごめんなさいぃ……♡♡」
「乳首も大きくて弾力もあって最高！！」
「変なこと言わないでぇ……♡♡♡」

いつまでも触っていたくなる心地よさだが……一旦手放してもみじの返事を聞こう。
大丈夫、すぐにまた味わえるから……。
自分の両手をそう説得して、なんとかおっぱいから離れてもらう。

「まぁ、急にまくし立てて悪かったよ。でも全部本当のことだから」
「う、うん……♡」
「それで……セックスするよな？」
「えっ♡　それは、その♡　心の準備が♡♡」
「そうやって先延ばし先延ばしにしてると先輩卒業しちゃうぞ！！　即断即決でセックスだ！！」
「あっ♡♡　あうぅぅ♡♡」

我ながら無茶苦茶ばかり言ってるが、この調子でガンガン押せばイけるイける！！
さっき謝ったばかりでなんだが、まだまだまくし立てるぞ！！！

「よし、それじゃあ脱ぐところから始めよう！！　もみじ、裸になりなさい！！」
「えぅぅ♡　無理だよぉ♡♡」
「脱がないなら……無理矢理するからな？」
「ふぇぇぇぇ……それはダメぇ……」
「無理矢理されるか自分から脱ぐか、二つに一つだぞ！！」
「わ……わかったからぁ」

もみじは目を泳がせて、一呼吸置いて、決定的な宣言をしてくれる。

「その……自分で脱ぐ、からぁ……」
「よっっっっし！！！！」

勝った！！！
勝ち確だ！！！
ズボンの下で早くも固くなったチンチン君が期待にビクビクわなないておる！！！！

「だからその、せめて脱ぐところは見ないでぇ……」
「うーむ……まぁ仕方ない」

じろじろ観察したい気持ちは山山々だが、あんまり無理強いしても先に進まないからな。
今日は制服→全裸の極端なギャップを楽しませてもらうとしよう。

「それなら俺は部屋を出るから、その間に脱いでおくんだぞ」
「う……うん……」

♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡　♡

ドアの向こうからかすかに、絹の擦れる音が聞こえる。
これだけで1リットルくらい射精できそうだが、そんな勿体ないことはやめておこう。
来るべき時に備えて、俺も準備だ。
服を脱いで……パンツ一丁になっておこう。
肝心のブツをいきなり見せるのは勿体ない。
ここぞ、って時にボロンと出してやる！！！

「おーい、脱ぎ終わったか？」

パンツ一丁で尋ねると、ドアの向こうから返事が聞こえる。

「……う、うん」
「よおおおおしっっ！！　じゃあ入るぞ！！」
「えっ、あっ、うぅぅ」

あたふた焦るもみじに全く遠慮せず、俺は思いっきりドアを開く！！！
Open the Heaven's door!!!!

「うおおおおおおおおおお！！！！！」

扉を開くと……現れる！！！
あられもない姿のもみじが！！！
肌色一色で、両手を使って必死に胸と股間を隠す女体が！！！
隠そうとするから腕で潰されて余計にその豊満さが強調される爆乳が！！！

「うぅぅ……あんまり見ないでぇ」
「す、すげぇ……！！　見ているだけで射精しちまいそうだ……！！」
「へっ、変なこと言わないでよぉ……」

もじもじと恥じらい、目を伏せる姿がまた……たまらない……。

それにしても、もみじの乳房……本体も当然デカいが、同じくらい目を引くのが……腕に潰されているピンク色！！！

「ピンク色の乳輪を見せてくれてるのは俺へのサービス！？　ありがとうございます！！」
「ち、ちがっ……隠したくても隠れなかったのぉ」
「えっ、何故（なにゆえ）に！？」
「それは、その……私の、大きめ、だから……」
「ぐへへへへへへへへへへへへ」
「嬉しそうに笑わないでよぉ」

そんなこと言われても、嬉しくて嬉しくてたまらないんだから仕方ないじゃないか！！！
乳輪が大きめの女の子がいたら笑顔もこぼれてくるじゃないか！！！

「それじゃあ、大きめの乳輪をもっとちゃんと見たいことだし……その手もどかしちゃおうか！！」
「えっ！　そ、それは無理ぃ」
「どかさないなら……レイプするぞ？」
「えっ、や、やだぁ……怖いこと言わないでよぉ……」

こんな美味しそうな女体を目の前にして、これ以上我慢できない……！！
段階を踏んでセックスするか、今すぐ犯すか二つに一つだ！！！

「５秒前！」
「えっ！！？？」
「３、２……」
「ま、待って！」

いきなり犯されるのを恐れたもみじが、突如始まったカウントダウンに慌てて腕を下ろす！！！
そして現れた……露わな女体！！！

「おほほほほぉぉぉぉぉぉ……！！！」
「う、うぅぅぅぅ……」

隠しても隠しきれなかった乳輪は、真正面から見ればやはり立派！！！
その上で膨らむ乳頭も負けず劣らずご立派！！！
股間からは黒々とした陰毛がしっかり伸びていて……辛抱たまらん！！！
本能の赴くまま、おっぱいを舐める！！！　揉む！！！！

れろれろれろれろれろれろれろれろ♡♡♡♡♡
むにむにむにむにむにむにむにむに♡♡♡♡♡

「やぁぁぁぁぁぁぁぁ♡♡　そ、そんな急に♡♡　だめぇぇぇぇ♡♡♡」

うおおおおおおおおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ生おっぱい美味しすぎる柔らかすぎる！！！！
舌だけでなく、唇でも味わいたい！！！！
吸う！！！！

ちゅうぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ♡♡♡♡

「乳首も乳輪に見合うデカさで吸いごたえありすぎる……！！　最高……！！」
「んぁぁぁぁぁぁ♡♡　やっ♡♡　やめてよぉぉぉぉ♡♡」

れろれろれろれろれろれろれろ♡♡♡♡♡

「あれ！？　ごめん、気持ちよくなかった！？」

やめてほしいと思うのは、それが原因なのか？

紳士的で細やかな気遣いのできる俺は尋ねる。

「そっ♡♡　そんな恥ずかしいこと聞かないでぇ♡♡」

要するに気持ちいいんじゃねぇか！！！

続行！！！！

れろれろれろれろれろれろれろ♡♡♡♡♡

「やっ♡♡♡　やめてって言ってるのにぃ♡♡♡♡」

とはいえ、今日が初めてのセックスになるんだから戸惑うのも無理はない。

ここはもう少し気遣いを深めるべきか！！！

「うーん、じゃあ一旦リラックスしようか！！」

「ふぇ！？♡」

俺はもみじにリラックスしてもらうべく……唇と手をスピードアップ！！！！

乳を吸う！！！

そして……女陰を擦る！！！
真っ黒な陰毛をかき分けるように、クレバスを指でなぞる！！　なぞる！！！
ちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱ♡♡♡♡♡
くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♡♡♡♡♡

「あっっ♡♡　やだやだやだ♡♡♡　そこっ♡♡　触っちゃダメだよぉ♡♡♡」
「きちんとほぐさないとチンポ挿入（はい）らないだろ！！　あーっ、指に陰毛が絡んでくる！！」
「やだぁ♡♡　変なこと言わないでよぉ♡♡」

もみじが気持ちよくなってる証拠で指がじとじと濡れてくる！！！
ぬるぬると滑ってますます指が加速する！！！
このまま絶頂まで導いてやらなきゃマナー違反だこれは！！！

「なにこれっ♡♡　なにこれっ♡♡　きもちいぃよぉぉ♡♡♡」
「イけっ！！　一回イってリラックスするんだ！！」
「やだっ♡♡　やだっ♡♡　恥ずかしいよぉ♡♡♡」

下の口は嫌だと言ってない！！！
ぬるぬる絡みついてくる女陰の要望に応えるべく、最後まで指を働かせる！！！

れろれろれろれろれろれろれろれろれろれろ♡♡♡♡♡
くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♡♡♡♡♡

「あっ♡♡　あっ♡♡　だめっ♡♡　だめっ♡♡　きちゃうきちゃうきちゃうきちゃう♡♡♡♡」

ビクンッッッッ♡♡♡♡♡

「んんんっっっっ♡♡♡♡」

もみじの蜜壷から、気持ちよくなっちゃった証拠がはしたないほど溢れ出る！！！

「はぁ……♡♡　はぁ……♡♡　な♡♡　なにこれぇぇ♡♡♡」
「気持ちよかった？」
「す……♡♡　すごい♡♡　きもちよかったよぉ♡♡」
「一人でするのとどっちが気持ちよかった？」
「こ……♡　こっちの方……♡♡」

「へぇ……もみじもやっぱりオナニーするんだ」
「あ……♡　や、やだぁ♡」

聞いただけでこっちがオナニーしたくなる情報をいただいて大満足。
気持ちよくしてあげた対価としては申し分ないな！！！
一仕事終えた満足感とともに、改めてもみじを見つめる。
興奮と恥じらいで、紅く染まった頬……。

「それにしても……やっぱりもみじって可愛いなぁ」
「え……♡　そ、そうかなぁ♡」
「そうそう。だからキスするね」
「え？」

戸惑うもみじの唇を、一瞬にして奪う！！！

ちゅうううううううううう♡♡♡

「んんんんん♡♡♡♡」

（うそっ♡♡　うそっ♡♡　キスされちゃってる♡♡）

初めて味わう女の子の……もみじの唇……！！！
指で触れただけではわからないこの柔らかさ！！！　湿り気！！！
唇を重ねるごとに満足感が増していくっ！！！！

ちゅっ♡♡　ちゅっ♡♡　ちゅっ♡♡　ちゅっ♡♡

「ひっ♡♡　ひどいよぉ♡♡　んっ♡♡　はじめてっ♡♡　んんっ♡♡　だったのにぃ♡♡♡」
「これからセックスするのに泣きごと言うんじゃない！　わかったな！？」
「ふぇぇぇ♡♡　ごめんなさいぃ♡♡」

まったく……もっとしっかりしつけてやらんとな！！！

「あー、もみじの唇美味すぎ……！！」
「んっ♡♡　んっ♡♡　んっ♡♡」

この美味しさをもっともっと深く味わうべく、俺は舌をつっこむ！！！

れろっ♡　れろっ♡　れろっ♡　れろっ♡　れろっ♡

「ほらっ！　舌出せ舌！！」
「んぁっ♡　やぁぁ♡　んん……っっ♡♡」

素直なもみじは言われたとおり舌を出してくれる！！！
柔らかい舌と舌がねっとり絡み合って……口の中が性感帯になったみてぇだ！！！

「後でチンポも舐めてもらうからな！　舌の使い方覚えるんだぞ！！」
「そっ♡　そんなのっ♡　んぁっ♡　だめだよぉ♡」

だめと言いながらも動くもみじの舌！！！
これが俺のチンポに絡みついたら……想像しただけで射精しそうだ！！！

「セックスの時はチンポをしゃぶるのがマナーなんだぞ！！　そんなことで生徒会長と付き合えると思うな！！」
「ふえぇぇぇ♡」

戸惑いながらもきっちり舌を絡ませてくれるもみじ……。

なんていやらしい子なんだ！！！

（ど♡　どうしよう……♡♡　キスするの、気持ちいぃよぉ……♡♡）

「ふぅぅぅ……最高……！！」

「うぅぅぅ♡♡♡　こんなのダメだよぉ♡♡♡」

「ダメじゃない！！」

まったく聞き分けのない子だ！！！

間髪入れずにプレイを進める他ない！！！

「よし、それじゃあ次だ！　姿勢を低くして！！」

「こ……今度はなんなのぉ」

おっぱいと顔を丁度いい位置に持って行くため、もみじに膝立ちさせる！！！

「ほらほら胸を張っておっぱいをよく見せて！！」

「あぅぅ……」

そして、もみじの顔がベストポジションに着いたところで……パンツを脱ぎ去る！！！！

ボロンッッッッッッ！！！

「ひやぁぁぁぁぁっっ♡♡♡　なっ♡　なにこれぇぇ♡♡♡」

「チンポだぞ！！！」

もみじの膣内（なか）に入るべく膨らみに膨らんだ俺の男根が、堂々とその姿を現した！！！

「こ♡♡　こんなに大きいなんて聞いてないよぉ♡♡♡」

「しっかり見るんだぞ！　これがもみじの膣内（なか）に挿入（はい）るんだからな！！」

「うぅ……♡♡　変なこと言わないでよぉ♡♡♡」

もじもじと目を逸らす……と見せかけて、しっかりチンポを見つめるもみじ！！！

なんだ、やっぱり興味津々じゃないか……！！！

「その……♡♡　男の人ってみんなこんなに大きいの……？♡♡」

「いや？　俺より大きいやつなんて生まれてこの方見たことないなぁ……。生徒会長だって俺の半分くらいだと思うぞ」
「そ……♡♡　そうなんだ♡♡　すっごく、大きいんだね……♡♡♡」
チンポを見せてその質問と反応は、もう実質合意だろ……！！！
我慢ならねぇ……一発射精してやる！！！
「よしっ！　それじゃあローションで準備するぞ！！」
俺は常日頃からよろづのことに使ひけるローションをもみじの乳房の深い谷間に塗り込んでいく！！！！
「ひゃぁっ♡♡　つめたっ♡♡　何するのぉ♡♡」
もみじのおっぱいが柔らか人肌オナホになったところで……挿入！！！
ぬっぷうううううう♡♡♡♡
「おほぉぉぉ……！！　すげぇ乳圧……！！」

「やぁぁ♡♡♡　そんなとこ入れちゃだめぇ♡♡♡」

ちんちんが温かくやわらかい肉に包まれる……！！！
男根を刺激する心地よくパワーある圧力が全身を痺れさせる……！！！
この素晴らしい乳オナホをしっかり味わうべく、腰を前後させる！！！
チンポを抜き差ししていく！！！！

ぬぷっ♡♡　ぬぷっ♡♡　ぬぷっ♡♡　ぬぷっ♡♡

「くおぉぉぉぉぉぉ……！！　きもちいいぃぃぃぃ！！！」
「やだっ♡♡　やだぁぁぁ♡♡♡」
「こんなデカいおっぱい……！！　パイズリしなきゃ嘘だろ！！　パイズリ拒否ったら誰とも付き合えねぇぞ！！」
「そんなっ♡♡　ひどいよぉ♡♡♡」

ひどいと言われても純然たる事実である！！！
このおっぱいを彼女にしてパイズリを期待しない男なんかこの地上に存在しない！！！

「あー、最高……！！　この乳圧でズられたら大量に射精る……！！」

「えっ♡♡　で、出るって♡♡　それ♡♡」

戸惑うもみじに答えを教えてあげるためにも、ピストンのスピードをアップさせていく！！！

爆乳の締め付けが射精感を急速に高めていく！！！

「あー、射精る！！　射精る！！　死ぬほど射精る！！」

「えっ♡♡　えっ♡♡　だめっ♡♡　だめっ♡♡」

「射精るッッッ！！」

ビュルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルッッッツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツツ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

みっちみちに肉の密着したもみじの谷間を、デロデロの白濁液が迸る！！！！

「ひゃぁぁぁぁぁぁぁぁ♡♡　何これ♡♡♡」
「くぉぉぉぉぉ……！！　気持ちいぃぃぃぃ……！！！」
不躾に放出される精液が、所狭しともみじの谷間から溢れ出てくる！！！
「これっ♡♡　多いっ♡♡　多すぎるよぉ♡♡♡」
「もみじの乳圧がすごいから……！！　まだ射精（で）るぅぅ！！」
「なにこれぇぇぇ♡♡　すごいよぉ♡♡　熱いよぉ♡♡　おっぱいの中♡♡♡　おかしくなっちゃうよぉ♡♡♡」
「最高ぅぅぅ……！！」
もみじの豊満な膣圧を竿でぬっちょりと感じながら、絞り尽くすくらいの勢いで射精ッッッッッ！！！！
ビュルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル……ッッッッッッッッッッッッッ！！！！！！！！！！！！！！！

「あー、滅茶苦茶よかった……！！」
「はぁ……♡♡　はぁ……♡♡　だ、出しすぎだよぉ♡♡」
「仕方ないだろ！　おっぱいが大きいんだから！！」
「そんなこと言われてもぉ♡♡」

まったく、なんと聞き分けのない子だ……。
彼女の教育のためにも、俺は深い谷間からぬっちょり♡　とペニスを出して可愛いお顔に突きつける！！

「それじゃあ、お口で綺麗にしてもらおうか」
「えっ♡♡　そ、それって……♡♡」

言わんとするところを察して、恥ずかしそうにペニスを見つめるもみじ。
だけどその視線には確かな熱があって……このムッツリスケベがっ！！！

「フェラチオするんだよ。わかる？　フェラチオ」
「し、知ってるけど……♡♡　無理だよぉ♡♡」
「無理じゃない！！　チンポをしゃぶって綺麗にするのは女の子として当然のマナーだから

な！！　そんな調子じゃ生徒会長と付き合えても一発で嫌われるぞ！！　ほら口開けて！！　しゃぶってしゃぶって！！」

「あ、あうぅぅぅ♡♡♡」

もじもじと戸惑ってなかなか口を開けてくれないもみじ！！！

そんな姿も愛らしい……だけどもう我慢できねぇ！！！

「あー、もう！！　挿入れるからな！！」

「えっ♡　えっ♡　待っ――」

もみじの柔らかくてプリプリした唇へ向けて、ちんぽで突撃じゃッ！！！！！

じゅぽおおおおおおおおお♡♡

「くおおおおおおおお……！！　あったけぇ……！！」

「んんんん♡♡♡♡」

キスするだけでは味わい尽くせなかったもみじの口の中……その奥の方までチンポがぬっぷりと

進撃していく……！！！
もみじのお口の温かさも柔らかさもぬるつきも、全部チンポで味わっていく！！！
気持ちよすぎて……腰が動いちゃう！！！

じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡

「あーっ、きもちいいぃ……！！　最高……！！」
「んっ♡♡　んっ♡♡　んんんっっ♡♡♡」

チンポでお口を蹂躙され、新鮮な興奮に喘ぐもみじ！！！

（どうしよう♡♡　どうしよう♡♡　おちんちん♡♡　おちんちんしゃぶっちゃってるよぉ♡♡）

じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡

「あったかくてぬるついてて気持ちよすぎる……！！　ほら、舌もちゃんと動かすんだ！！」
「んっ♡♡　んっ♡♡　んっ♡♡」

命令を聞いたもみじ……その舌が、俺のチンポにぴとっ♡　とくっついてくる！！！

ゆっくりと、だけど確実にチンポの形を確かめ始めたもみじの柔らかな舌……！！！

（すっ♡　すごい♡♡　ぬるぬるがいっぱい出てくる♡♡　口の中♡♡♡　男の子の味が広がっちゃうよぉぉ♡♡♡）

もみじの舌は自然と、まるで恋人のキスを求めるように……動く！！！

俺のチンポを舐め始める！！！

れろっ♡♡　れろっ♡♡　れろっ♡♡　れろぉぉ♡♡♡

じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡

「あー、そうそう……上手だぞ……！！」

（舌♡♡　動いちゃう♡♡　こんなえっちなこと♡♡　だめなのにぃ♡♡♡）

舌の心地よさに俺のお腰も動きが止められねぇ！！！

舌が動けば腰が動いて、さすれば鈴口からはガマン汁が溢れ出て……もみじの舌も動きが増していく！！！！

れろれろれろれろれろれろれろぉぉ♡♡♡♡♡♡♡

じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡　じゅぽっ♡♡

「くおぉぉぉぉ……！！　気持ちよすぎる……！！　間違いなくセックスの才能あるぞ……！！」

（だめなのに♡♡　だめなのに♡♡　おちんちん♡♡　好きになっちゃうよぉ♡♡♡）

「あーっ、射精る！！　射精る！！　飲め飲め飲め飲め！！！」

（精液♡♡　精液♡♡　きちゃう♡♡　きちゃうっ♡♡♡）

俺のチンポを包み込むお口の熱から、もみじの確かな期待を感じる！！！

この期待、大量射精で応えなきゃ男じゃねぇ！！！

もみじお待ちかねの精液が……精液が……！！！

「射精ッッッッッッ！！！」

ビュルルルッッッ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

「んんんんんんん♡♡♡♡♡♡♡♡」

口の中を埋め尽くすような大量射精を受けて、もみじはそれを……飲み下す！！！

喉を鳴らして、熱い男汁を存分に味わっていく！！！

ぐびっ♡♡　ぐびっ♡♡　ぐびっ♡♡♡

この喉音を聞くとますます気持ちよくって……射精が加速するッッ！！！！

「あー、止まらねぇぇぇ……！！　気持ちよすぎるぅぅぅ……！！」

「んっ♡♡　んっ♡♡　んんっっ♡♡♡」

（精液♡♡　精液♡♡　こんな沢山♡♡　飲みきれないよぉ♡♡♡）

「あーっ……最高……！！」

もみじの清純な肉体に俺の汚い子種を流し込む快楽に酔いしれていると、突然チンポに解放感が訪れる！！！

「あふっっ♡♡♡」

射精の勢いに耐えきれなかったもみじが、射精チンポをお口から放してしまったのだ！！！

さりとて射精は未だ収まらず……白濁液は可愛いお顔に降り注ぐ！！！！

ビュルル射精の途中ですが体験版はここまで！！！　続きは製品版でオナシャス！！！！！

【今すぐシコれる豆知識】

製品版には挿絵だけでなく、エピローグまでついておるんじゃ